

子どもの現状について

I 概要

次期子育て支援計画の課題を検討するための参考情報として、「子どもの現状」に関する統計資料等を集約したものです。この統計資料等は、現在の子育て支援計画の「第3章 子どもの現状」を最新化したものであり、次期計画への掲載を予定しています。

II 子育て支援計画に掲載する項目

1 人口等の推移

(1) 人口の推移

- ・人口の推移【図表3-1】
- ・年齢3区分別人口（構成比）の推移【図表3-2】

(2) 男女別年齢5歳階級別の人口構成【図表3-3】

(3) 18歳未満の児童人口の推移

- ・18歳未満の児童人口の推移【図表3-4】
- ・18歳未満の児童人口の総人口に占める割合の推移【図表3-5】

(4) 合計特殊出生率及び出生数の推移

- ・合計特殊出生率の推移【図表3-6】
- ・出生数の推移【図表3-7】

2 人口推計

- ・人口推計（0～17歳）【図表3-8】
- ・人口推計（年齢3区分別人口）【図表3-9】

3 就業率

- ・文京区、東京都、全国の就業率の比較【図表3-10】
- ・文京区、東京都、全国の女性既婚者の就業率【図表3-11】
- ・文京区、東京都、全国の子どものいる女性の就業率【図表3-12】

4 子育て支援サービスの利用状況

(1) 未就学児童の保育の状況【図表3-13】

(2) 保育所等在籍児童数と待機児童数の推移

- ・保育所等在籍児童数の推移【図表3-14】
- ・保育所等待機児童数の推移【図表3-15】

(3) 育成室在籍児童数の推移

- ・育成室在籍児童数の推移【図表3-16】
- ・育成室定員数の推移【図表3-17】
- ・育成室待機児童数の推移【図表3-18】

(4) 特別な支援を必要とする児童の各施設での在籍数の推移【図表3-19】

(5) 子ども家庭支援センター相談件数の推移【図表3-20】

5 子育て支援に関するニーズ調査結果

- (1) 母親の就労状況【図表3-21】
- (2) 母親の就労希望【図表3-22】
- (3) 子育ての楽しさ【図表3-23】
- (4) 子育ての不安や悩み【図表3-24】
- (5) 役立つ子育て支援の施設・サービス【図表3-25】
- (6) 定期的な教育・保育事業の利用希望—子どもの年齢別【図表3-26】
- (7) 小学校の放課後を過ごさせたい場所・過ごしている場所【図表3-27】
- (8) 子育て支援や環境への満足度について【図表3-28】

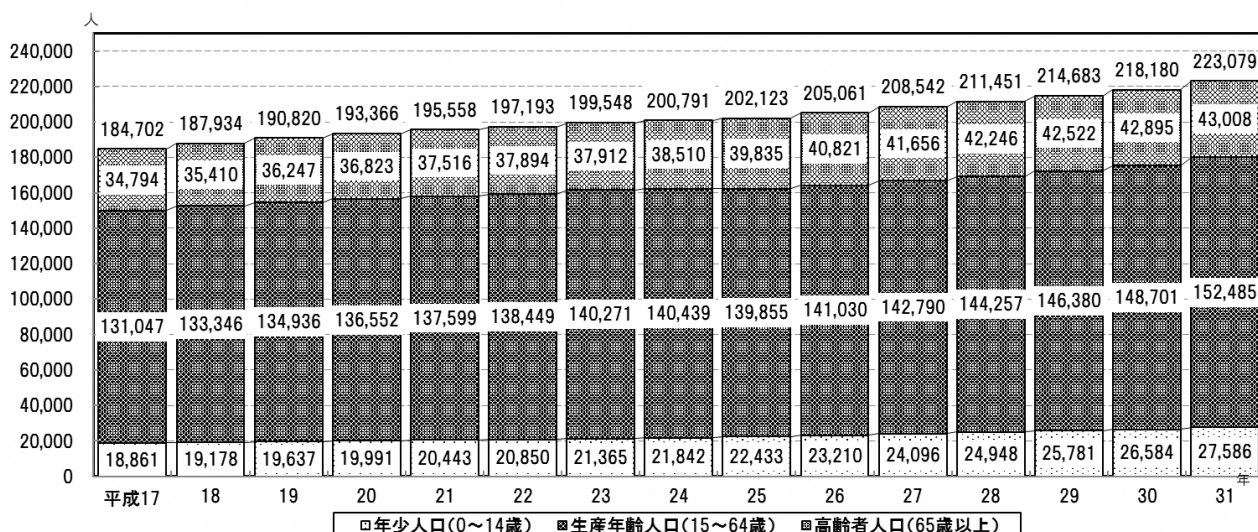
1 人口等の推移

(1) 人口の推移

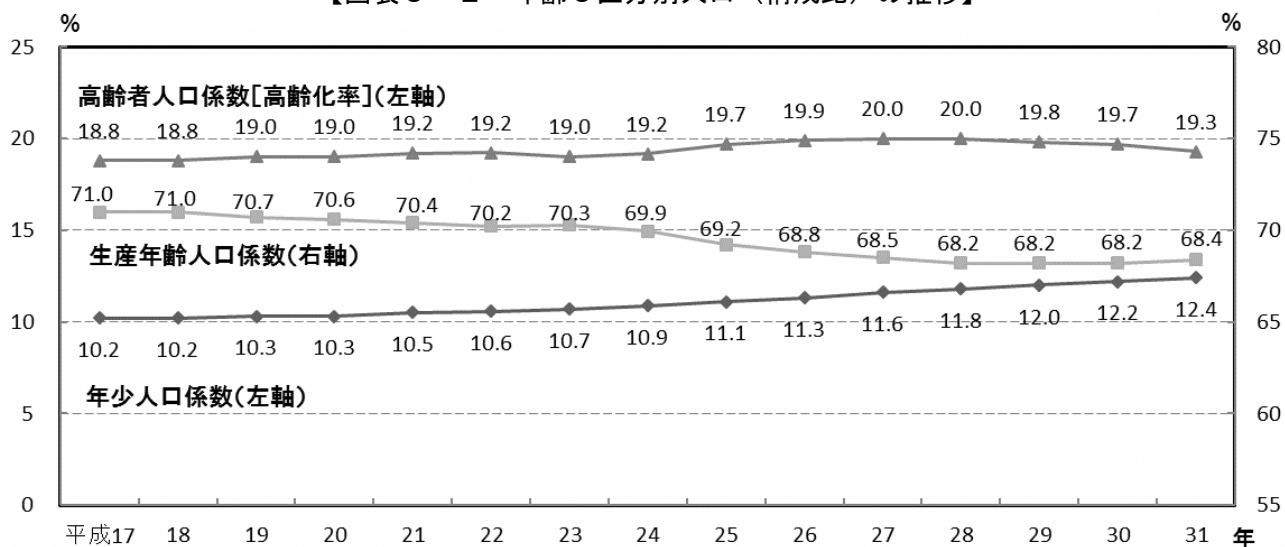
文京区の人口は、平成11年に増加に転じ、その後は緩やかに増加し続けています。平成31年4月1日現在、住民基本台帳上の人口は、223,079人で、そのうち外国人住民は10,840人となっています。

平成31年4月1日現在の0～14歳の年少人口は、27,586人で、前計画の開始時点である平成26年4月1日現在の23,210人から4,376人増加しており、構成比の割合も徐々に高くなっています。

【図表3-1 人口の推移】



【図表3-2 年齢3区分別人口（構成比）の推移】

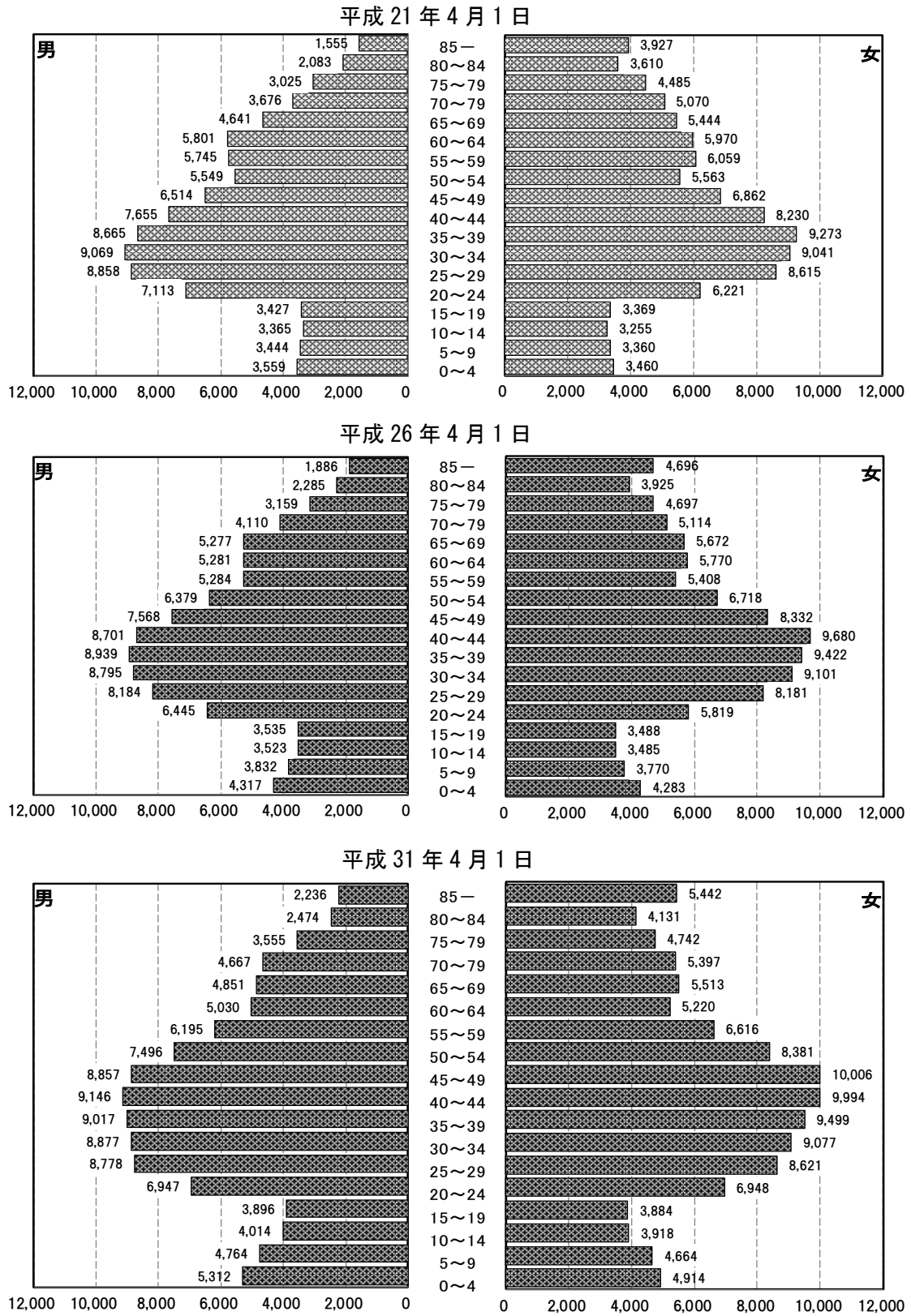


資料: 文京区人口統計資料(各年4月1日)

(2) 男女別年齢5歳階級別の人口構成

平成21年、平成26年、平成31年の各4月1日現在の男女別年齢5歳階級別の人口構成を、人口ピラミッドに表したものが次の図です。

【図表】3-3 男女別年齢5歳階級別の人口構成

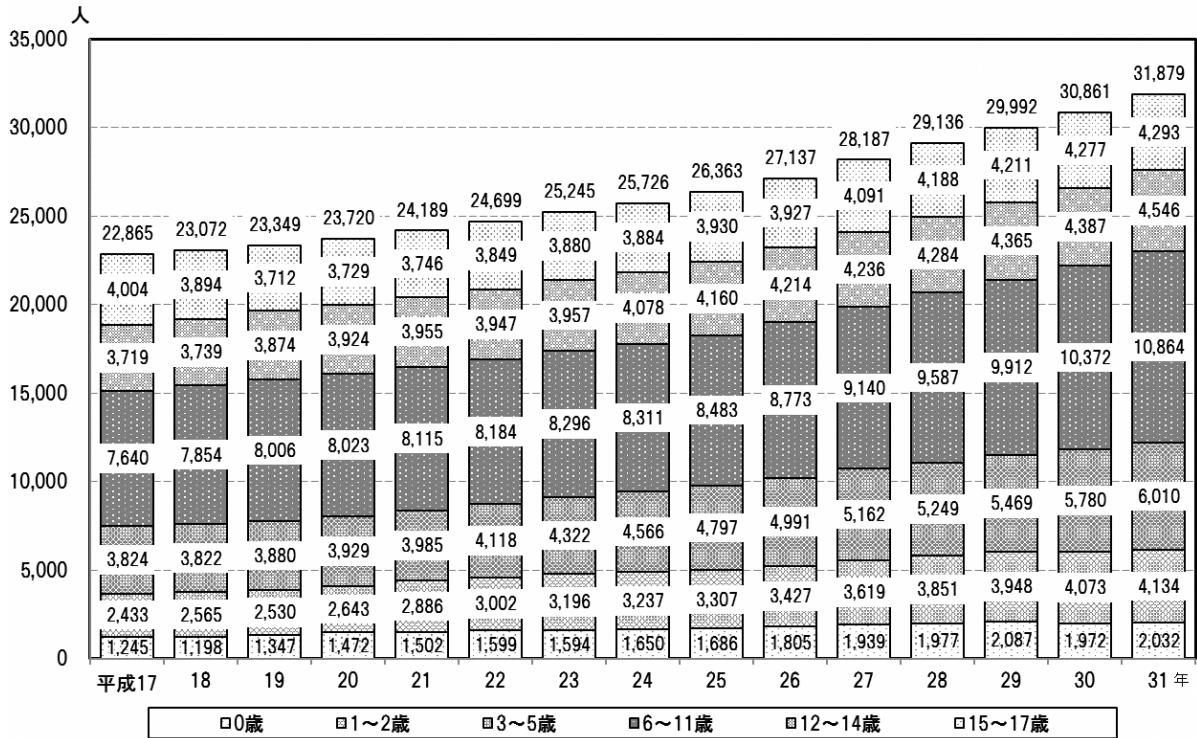


資料: 文京区人口統計資料(各年4月1日)

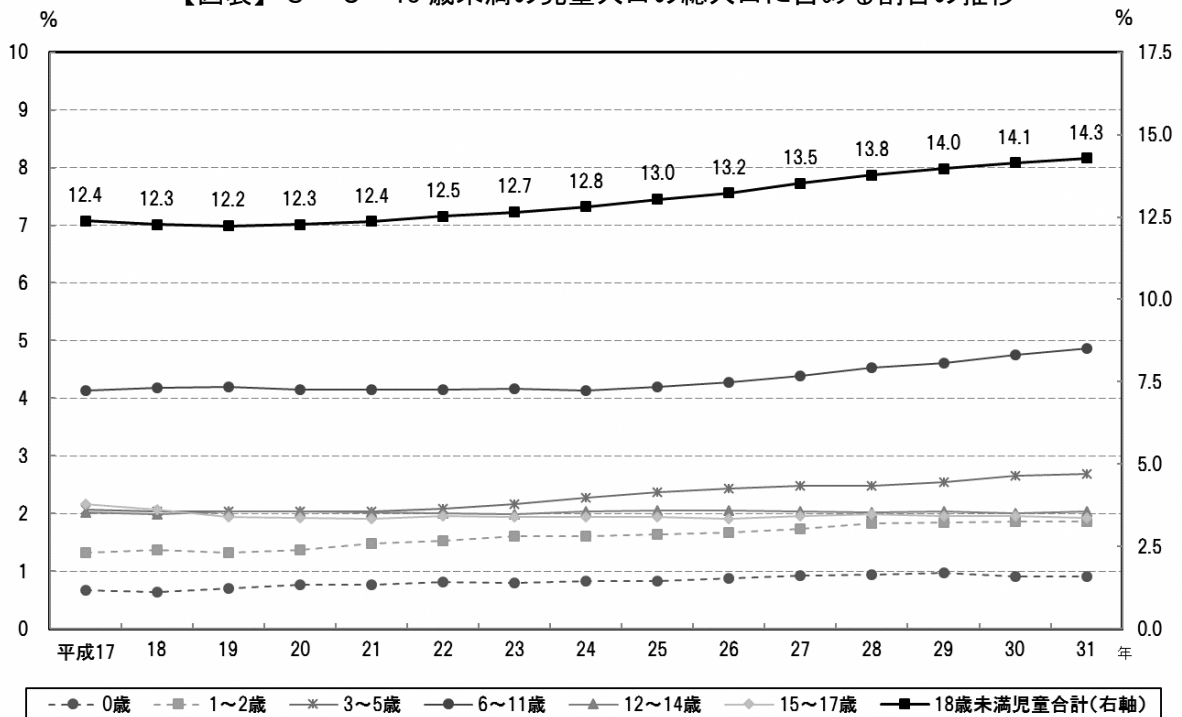
(3) 18歳未満の児童人口の推移

平成31年4月1日現在の18歳未満の児童人口は31,879人で、総人口に占める割合は14.3%となっています。平成26年に比べて、人数では4,742人増加し、総人口に占める割合も1.6%増加しています。

【図表】3-4 18歳未満の児童人口の推移



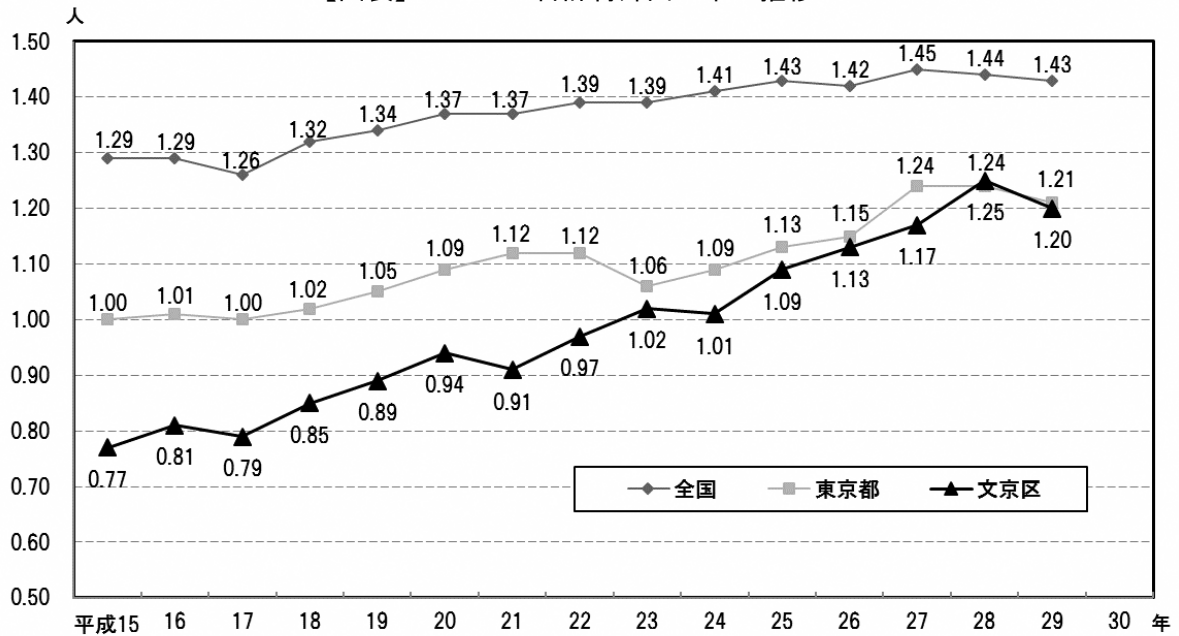
【図表】3-5 18歳未満の児童人口の総人口に占める割合の推移



(4) 合計特殊出生率及び出生数の推移

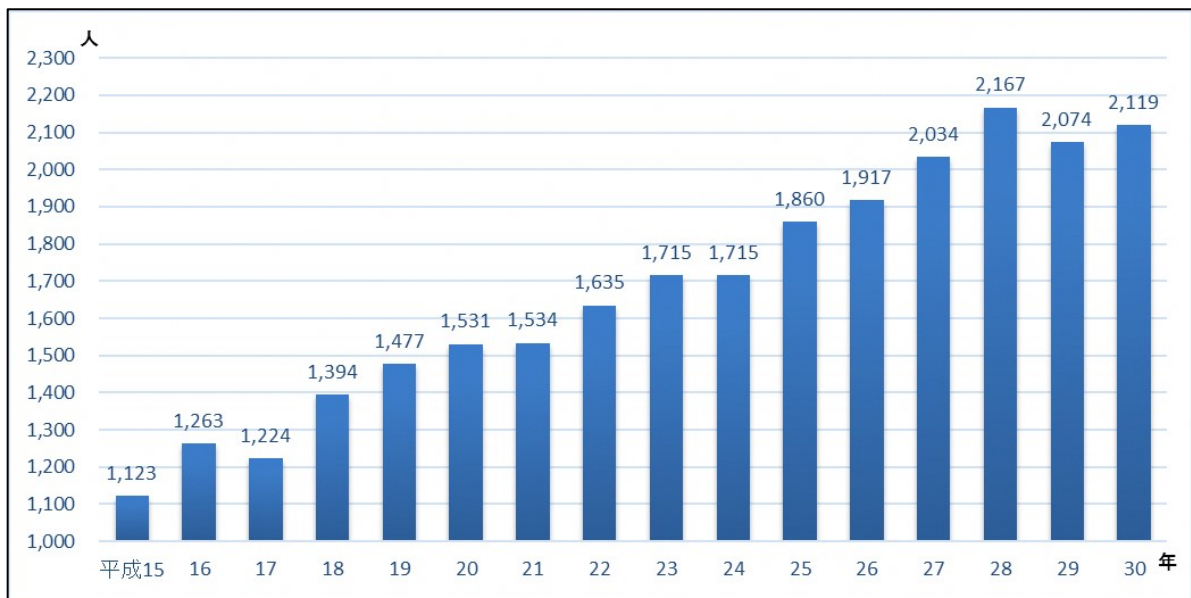
わが国の合計特殊出生率は、平成 17 年以降、回復傾向にあり、平成 29 年は 1.43 となりました。文京区の合計特殊出生率は、全国、東京都と比較して低い数値で推移していますが、平成 29 年には 1.20 まで回復しています。出生数も増加傾向にあり、平成 30 年には 2,119 人となっています。

【図表】 3-6 合計特殊出生率の推移



資料:ぶんきょうの保健衛生

【図表】 3-7 出生数の推移



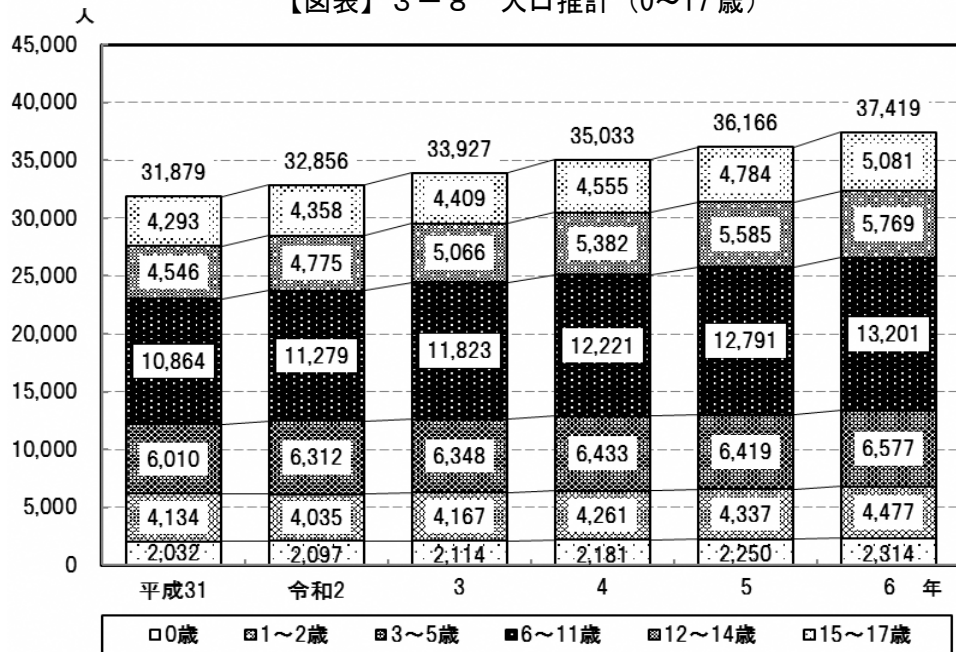
※「住民基本台帳法の一部を改正する法律」の施行に伴い、施行日(平成 24 年 7 月 9 日)以降の数値に外国人住民を含む。

2 人口推計

次期計画の策定に当たり、計画期間である令和2年から6年までの人口推計を新たに行いました。それによると、令和6年には0歳から17歳までの人口は37,419人と、平成31年に比べて5,540人増加する結果となりました。また、0歳から5歳までの人口は、13,368人となり、平成31年と比べて1,192人増える結果となりました。

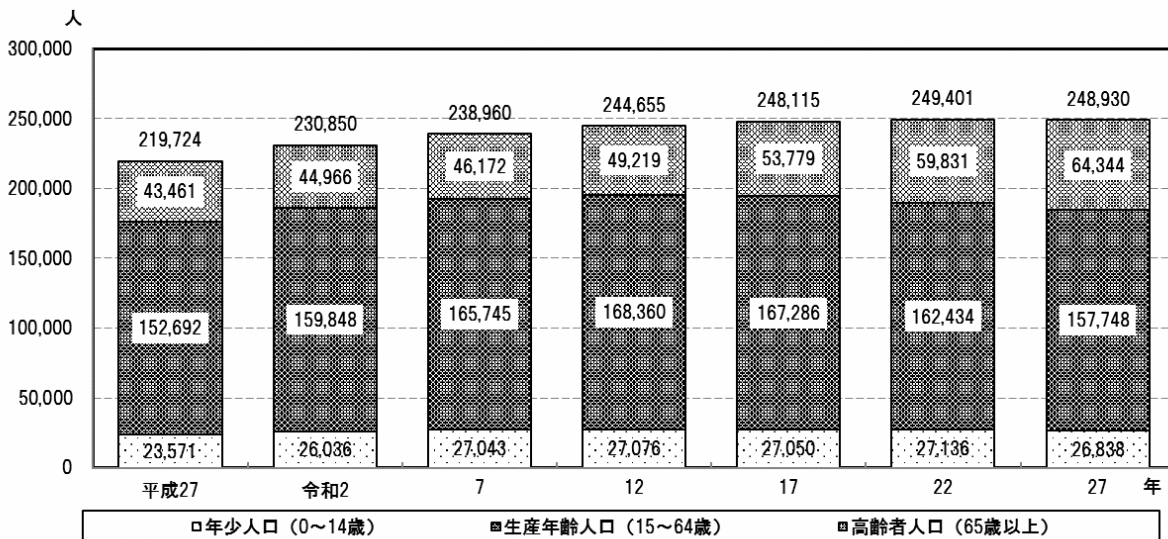
なお、令和27年までの人口推計（年齢3区分別人口）をみると、総人口は令和22年をピークに減少するという結果となりました。また、年少人口（0～14歳）の割合が低下し、老年人口（65歳以上の割合）が増加することが見込まれています。

【図表】3-8 人口推計（0～17歳）



※上記の人口推計結果は、「子ども・子育て支援事業計画における量の見込み(ニーズ量)」を算定のため、「市町村子ども・子育て支援事業計画における量の見込みの算出等のための手引き」に基づき過去3年分の変化率を平均値とするコーホート変化率法で推計したものです。(図表3-9を含め、他の計画で使用する人口推計値と異なる場合があります。)

【図表】3-9 人口推計（年齢3区分別人口）



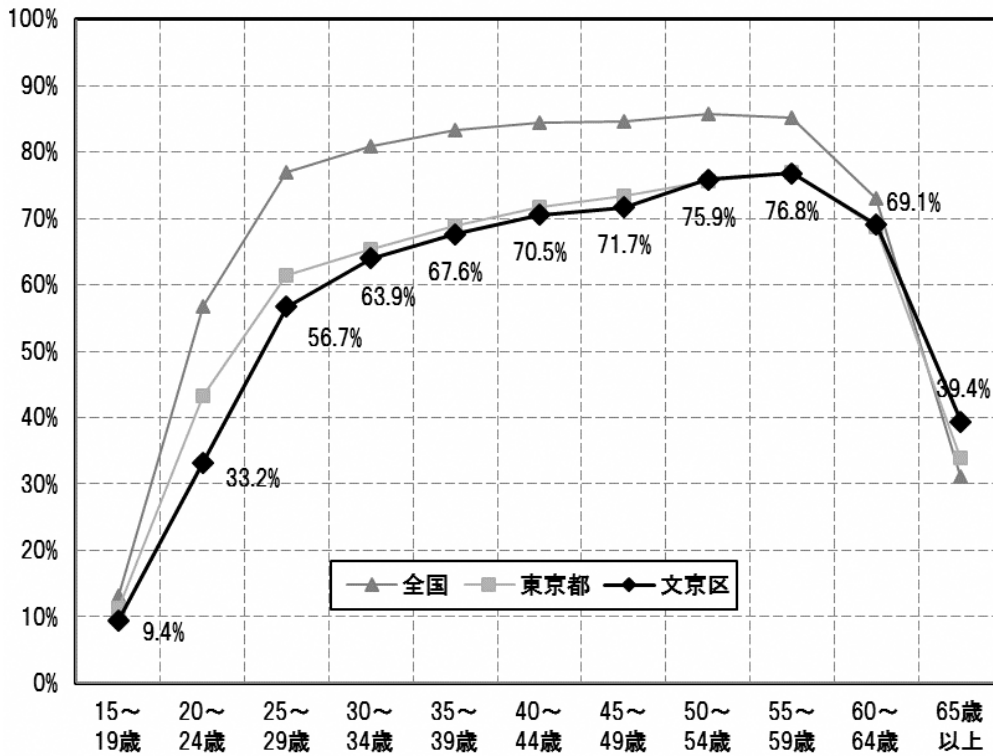
資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

3 就業率

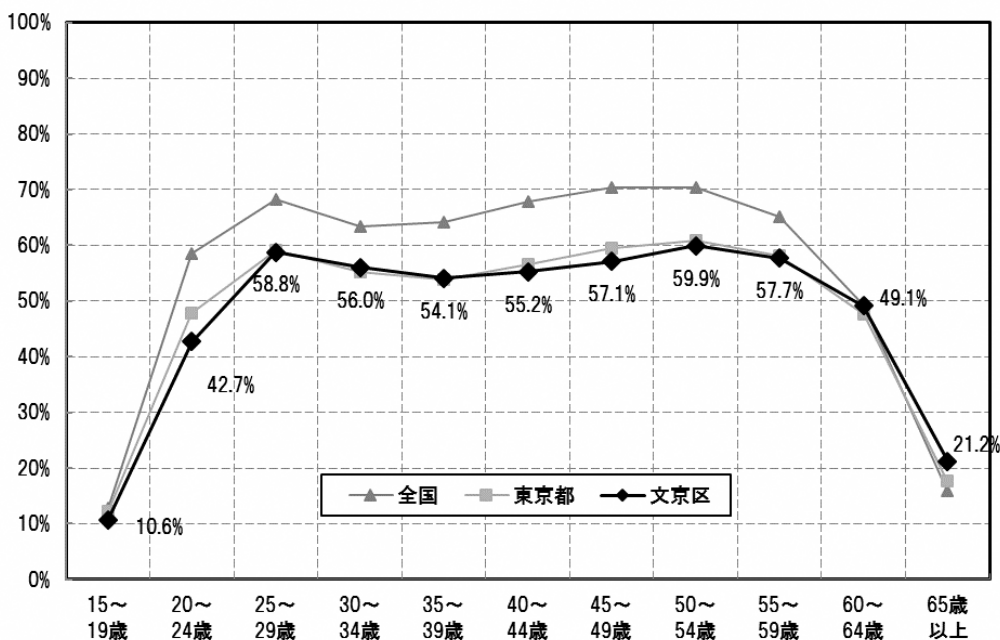
就業率を文京区、東京都、全国で比較すると、男性は10歳代から40歳代まで東京都、全国よりも低い数値となっています。女性は、全体として緩やかなM字型となっており、20歳代、40歳代、50歳代は東京都、全国よりも低いですが、30歳代では東京都を若干上回っています。

【図表】 3-10 文京区、東京都、全国の就業率の比較（平成27年）

【男性】



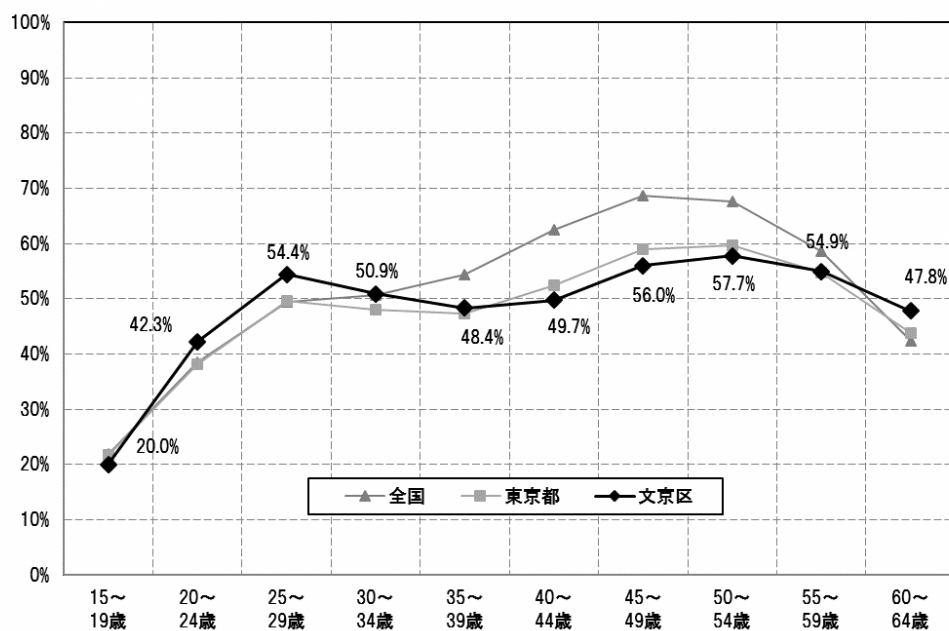
【女性】



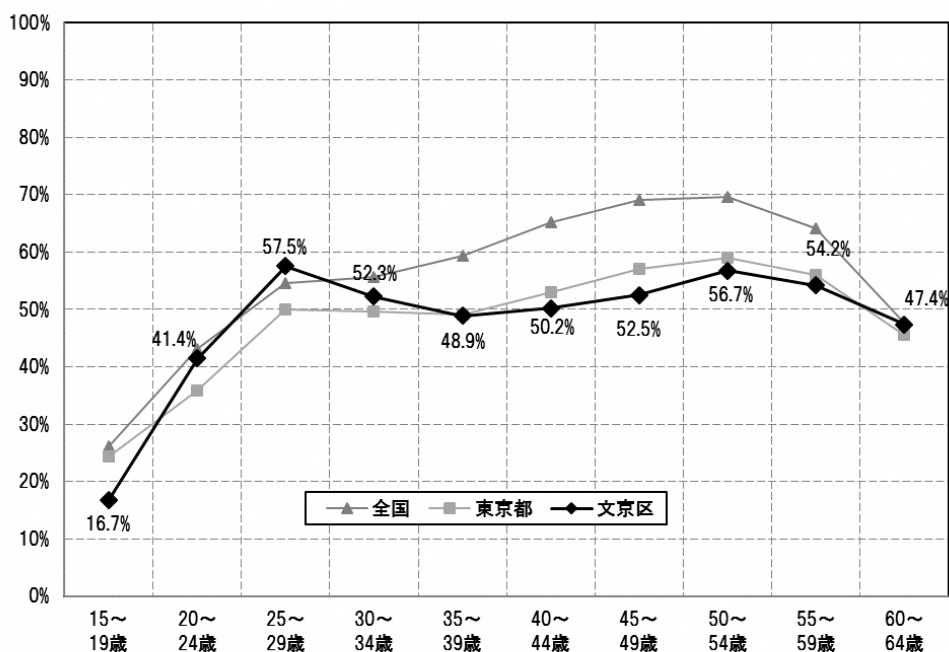
平成22年と27年における女性既婚者の就業率を文京区、東京都、全国で比較したのが下記の図です。文京区の20歳代後半から40歳代前半にかけての就業率は、いずれも平成22年に比べて伸びています。いずれの年も、20歳代と30歳代前半においては東京都を上回っています。

【図表】3-11 文京区、東京都、全国の女性既婚者の就業率

【平成22年】



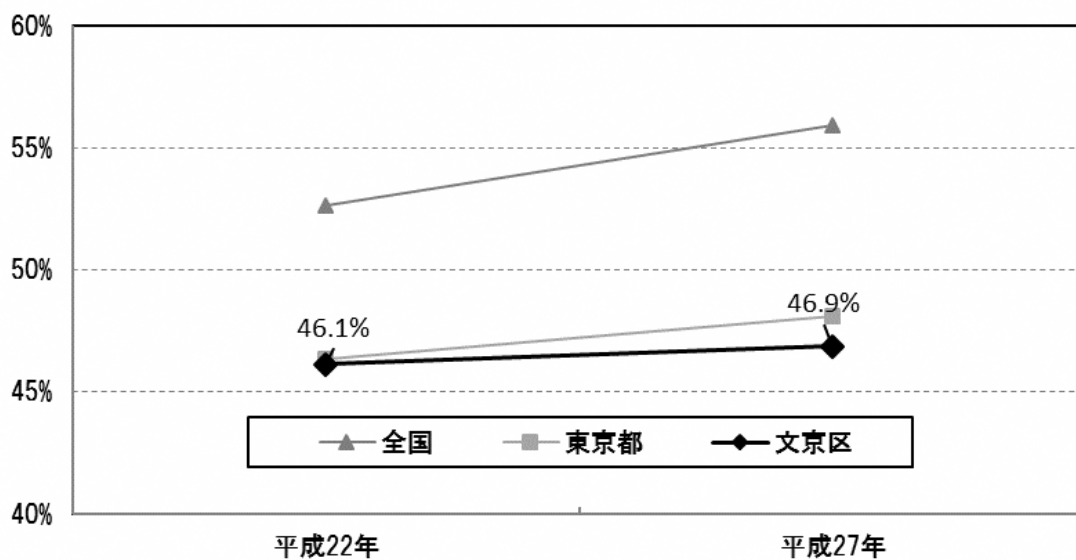
【平成27年】



資料：平成22年、平成27年国勢調査

平成22年と27年における子どものいる女性の就業率を文京区、東京都、全国で比較したのが下記の図です。文京区は平成22年度から平成27年度にかけて0.8ポイント伸びていますが、割合、伸び率ともに全国及び東京都を下回る状況となっています。

【図表】3-12 文京区、東京都、全国の子どものいる女性の就業率



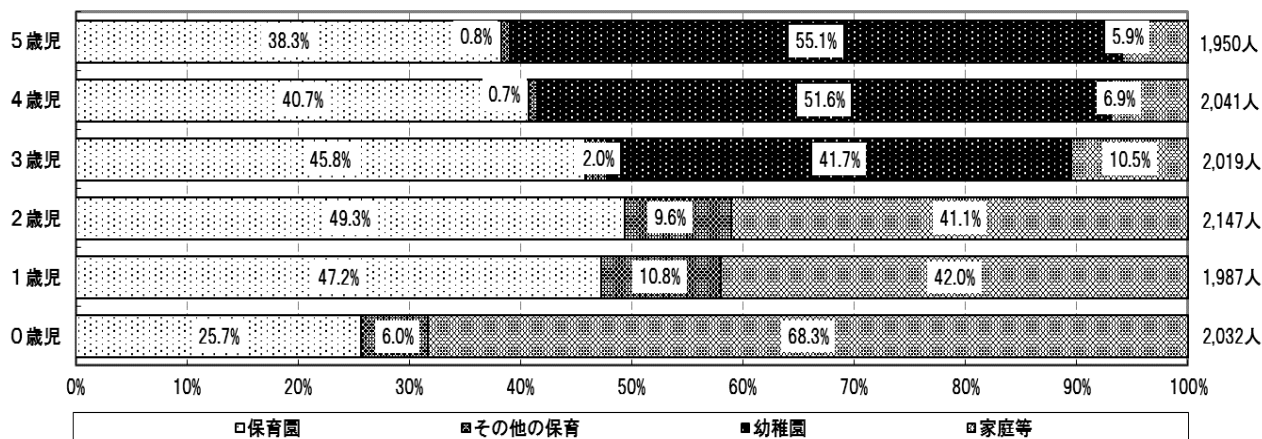
資料:平成22年、平成27年国勢調査

4 子育て支援サービスの利用状況

(1) 未就学児童の保育の状況

未就学児童（0～5歳児）が、どのような保育の状況にあるかを年齢別に割合で示すと、0歳は「家庭等」が最も多く、1歳児から3歳児では「保育園」の割合が最も高くなっています。

【図表】 3-13 未就学児童の保育の状況



※平成31年4月1日現在の0～5歳の人口（外国人含む）「文京区人口統計資料」を基礎とする。

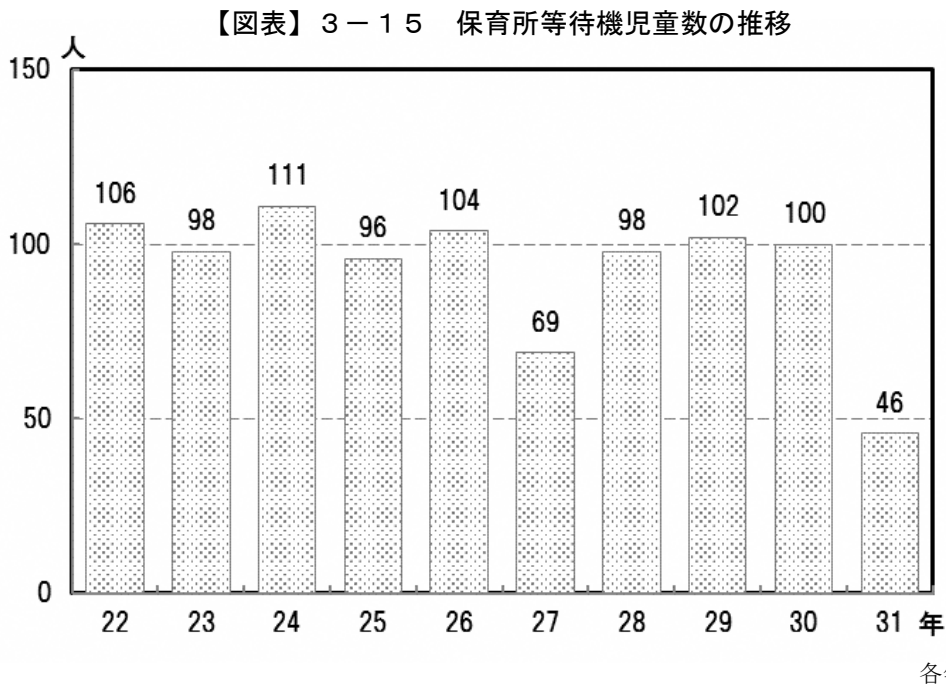
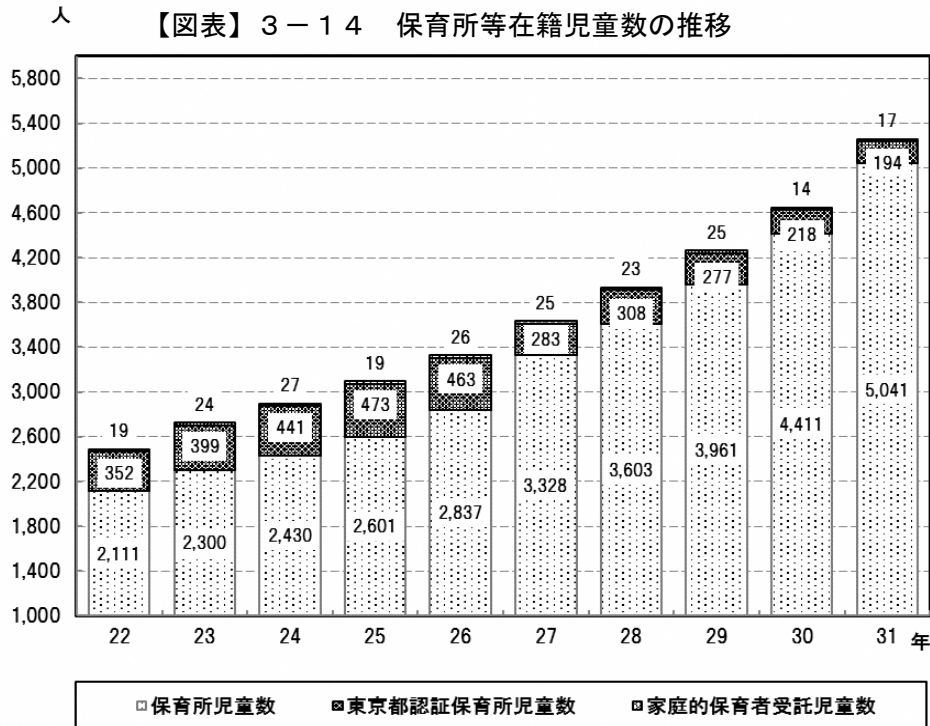
※各保育施設等の平成31年4月1日現在の在籍児童数

※その他の保育とは、保育所型認定こども園、小規模保育事業、居宅訪問型保育事業、企業主導型保育事業、地方単独型保育施策、東京都認証保育所、家庭的保育事業（保育ママ）、事業所内保育事業の在籍児童数の合計である。

(2) 保育所等在籍児童数と待機児童数の推移

保育サービスについては、平成 31 年 4 月 1 日現在、認可保育所が 93 園（分園含む）、東京都認証保育所が 3 園あります。保育所の在籍児童数は増加し続けており、平成 31 年の保育所在籍児童数は平成 24 年の 2 倍を超える状況となっています。

待機児童は近年、増減を繰り返してきましたが、平成 31 年には大きく減少し、46 人となっています。

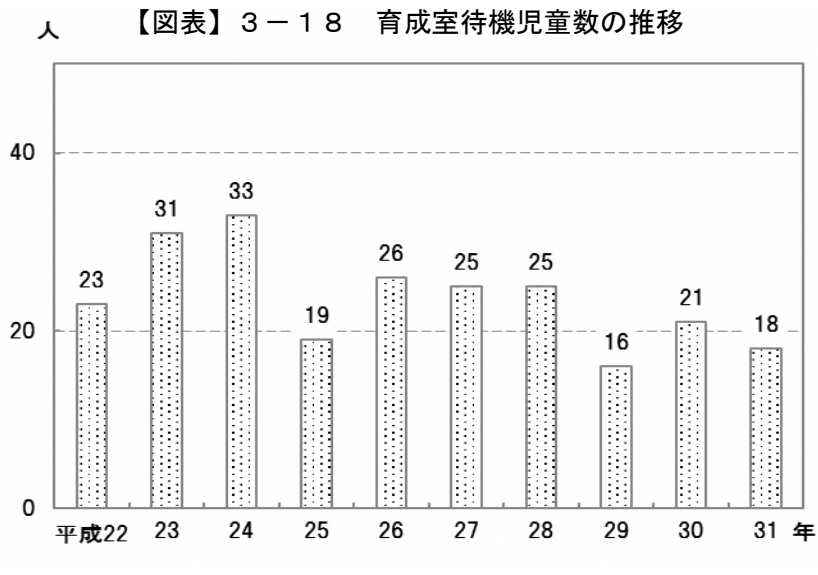
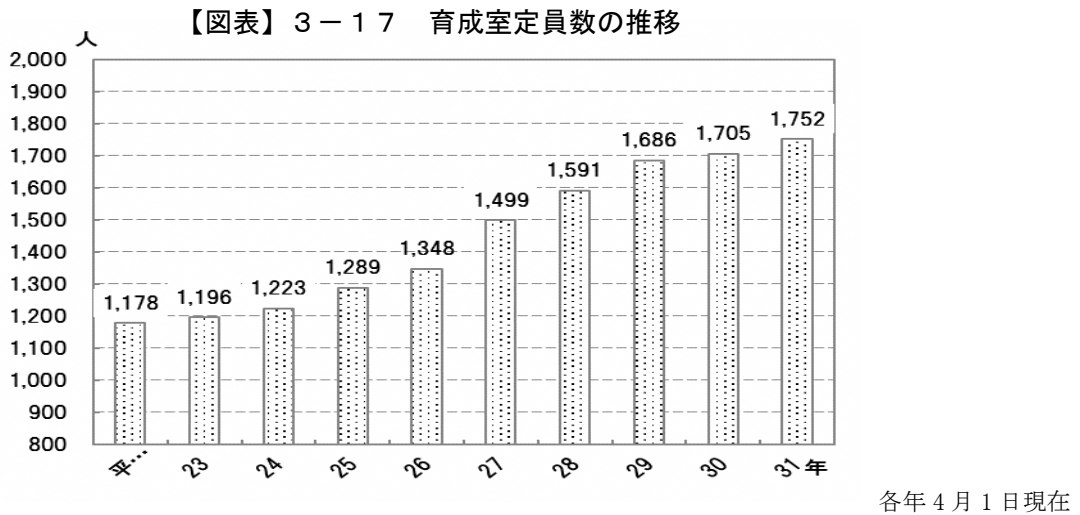
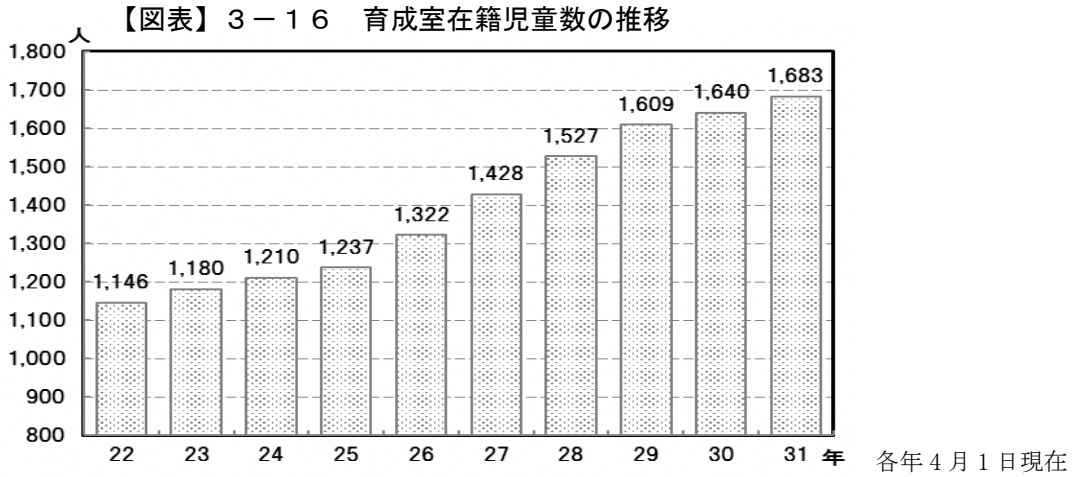


注：平成 29 年度以前と平成 30 年以降は待機児童の定義が異なる。

資料：保育所等利用待機児童数調査について（平成 29 年 3 月 31 日付け雇児保発 0331 第 6 号 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長通知「保育所等利用待機児童調査要領」）

(3) 育成室在籍児童数の推移

育成室は、平成 31 年 4 月現在 38 室となっています。育成室の在籍児童数も年々増加の一途で、平成 31 年には 1,683 人となっています。定員数も増やし続けており、平成 31 年には 1,752 人となっています。なお、育成室の待機児童数は増減を繰り返しており、平成 31 年には 18 人となっています。



(4) 特別な支援を必要とする児童の各施設での在籍数の推移

特別な支援を必要とする児童の在籍数は、平成26年度と平成31年度を比較してみると、区立保育園、区立幼稚園、育成室のいずれの施設においても増加しています。

【図表】3-19 特別な支援を必要とする児童の各施設での在籍児童数の推移

(人)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
区立保育園	23	28	33	43	40	45
区立幼稚園	56	71	62	56	61	75
育成室	72	65	72	81	88	90

各年4月1日現在

(5) 子ども家庭支援センター相談件数の推移

子ども家庭支援センターへの児童虐待相談は、平成26年度が4,282件であったものが、平成30年度には7,909件と増加傾向にあり、合計の相談件数も12,625件となっています。

【図表】3-20 子ども家庭支援センター相談件数の推移

(件)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
児童虐待相談	4,282	6,142	7,233	6,435	7,909
その他相談	3,165	3,526	3,538	3,690	4,716
合計	7,447	9,668	10,771	10,125	12,625

5 子育て支援に関するニーズ調査結果

本区では、子育て支援策をさらに進めていくために、子育て中の区民の方々にニーズ調査を実施しました（平成30年10月～11月実施。就学前児童の保護者1,600人、小学生の保護者1,400人、中学生の保護者650人、中学生本人650人、高校生世代本人650人の計4,950人に配布。有効回収率50.9%）。その中で、母親の就労状況、就労希望、子育ての楽しさ、定期的な教育・保育事業の利用希望等について実態を把握しました。

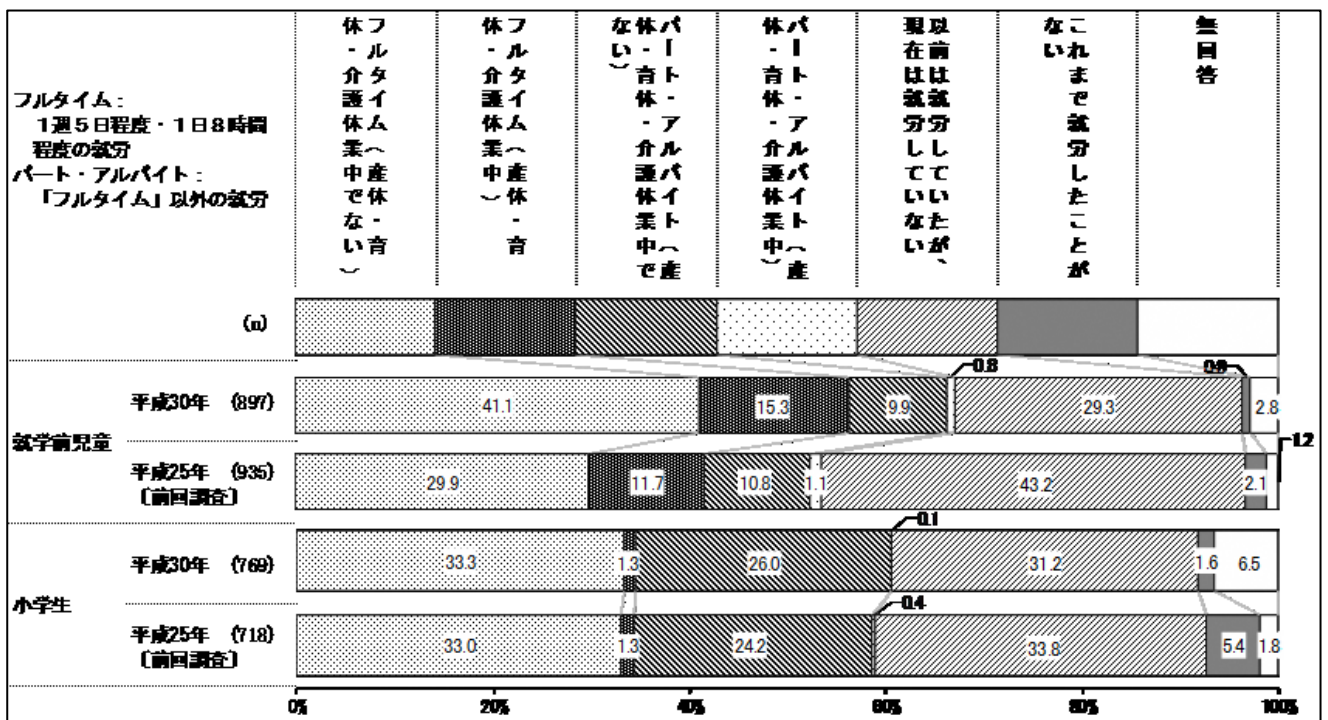
図表中の「n」は、該当質問での回答者総数を表します。

(1) 母親の就労状況

母親の就労状況について、「フルタイム（産休・育休・介護休業中でない）」の割合は就学前児童の保護者が41.1%、小学生の保護者が33.3%で就学前児童の保護者が多くなっています。「フルタイム（産休・育休・介護休業中）」の割合は就学前児童の保護者が15.3%と、小学生の保護者の1.3%と比べて多くなっています。「パート・アルバイト（産休・育休・介護休業中でない）」の割合は小学生の保護者が26.0%と就学前児童の保護者の9.9%より多くなっています。「以前は就労していたが、現在は就労していない」は小学生の保護者で31.2%と、就学前児童の保護者の29.3%と大きな差はみられません。

平成25年の調査結果と比較すると、就学前児童の保護者では「フルタイム（産休・育休・介護休業中でない）」が11.2ポイント増加、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が13.9ポイント減少しており、それぞれ10ポイント以上の変化が見られ、就学前児童の保護者におけるフルタイムで就労する母親が増加している様子がうかがえます。

【図表】3-21 母親の就労状況

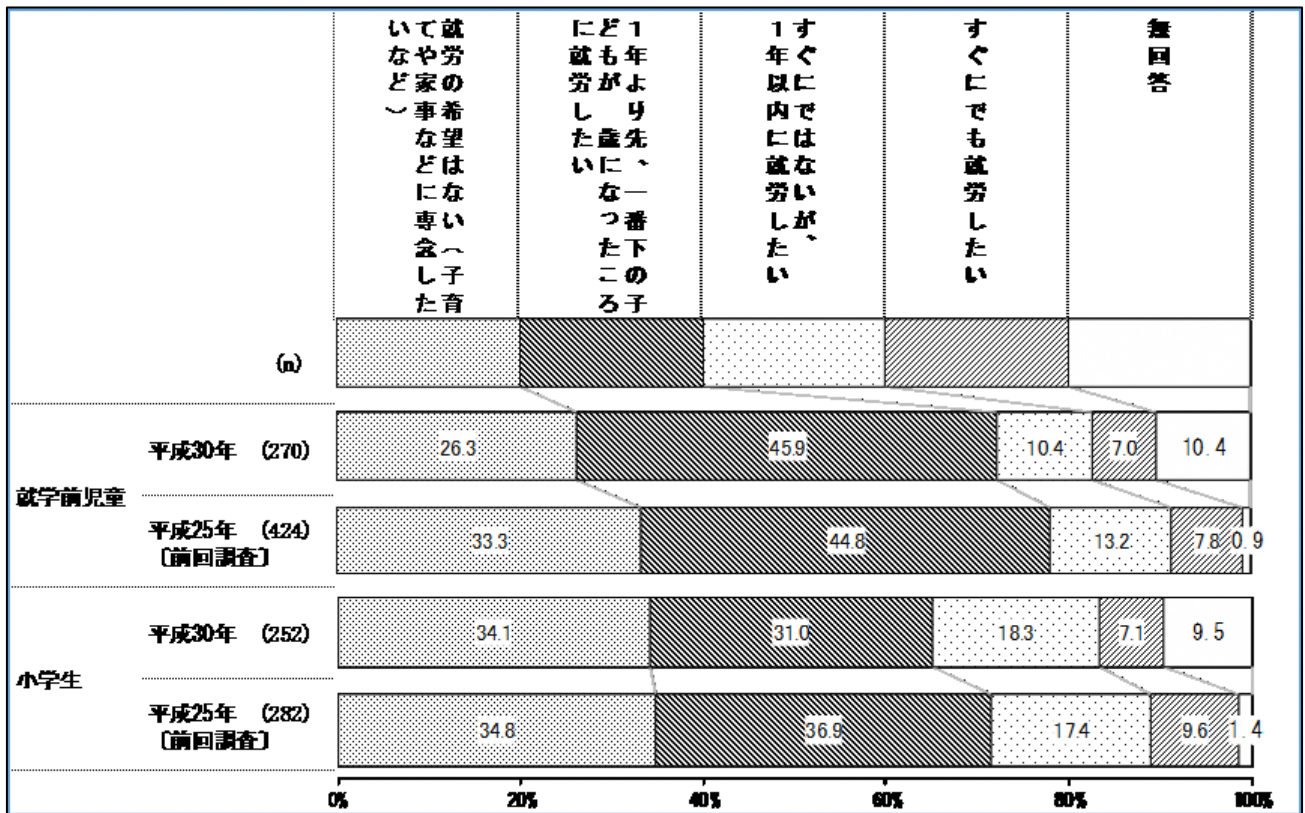


(2) 母親の就労希望

現在就労していない、またはこれまで就労したことのない母親の就労希望については、「就労の希望はない（子育てや家事等に専念したい）」が就学前児童の保護者が 26.3%、小学生の保護者が 34.1%となっています。1年より先に就労の希望がある割合は就学前児童の保護者が 45.9%、小学生の保護者が 31.0%となっていますが、「すぐにでも就労したい」または「すぐにではないが、1年以内に就労したい」の割合は小学生の保護者が 25.4%と、就学前児童の保護者の 17.4%と比べて多く、より早期の就労を望む声がみられます。

平成 25 年の調査結果と比較すると、就学前児童の保護者では「就労の希望はない」が 7.0 ポイント減少、「1年より先、一番下の子どもが__歳になった頃に就労したい」が 1.1 ポイント増加しており、就学前児童の保護者における就労を希望する母親が増加している様子がうかがえます。

【図表】 3-22 母親の就労希望（単数回答）

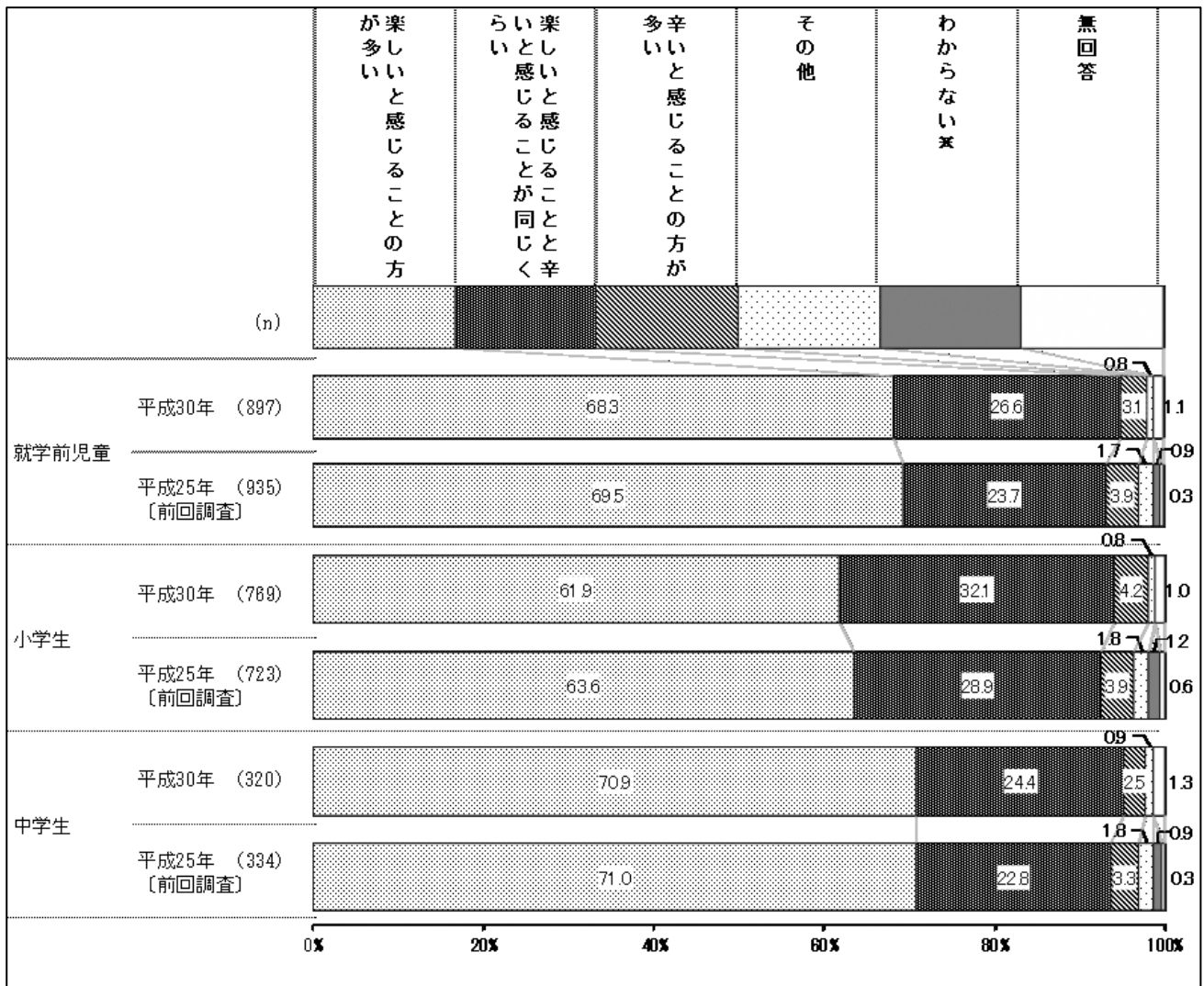


(3) 子育ての楽しさ

子育ての楽しさ・辛さの感じ方について、「楽しいと感じることの方が多い」と回答したのは、就学前児童の保護者が 68.3%、小学生の保護者が 61.9%、中学生の保護者が 70.9%となっており、「楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい」は就学前児童の保護者が 26.6%、小学生の保護者が 32.1%、中学生の保護者が 24.4%となっています。

平成 25 年の調査結果と比較すると、「楽しいと感じることの方が多い」は就学前児童の保護者が 1.2 ポイント、小学生の保護者が 1.7 ポイント、中学生の保護者が 0.1 ポイント減少しています。また、「辛いと感じることの方が多い」は就学前児童の保護者が 0.2 ポイント減少し、小学生の保護者が 0.3 ポイント増加し、中学生の保護者が 0.8 ポイント減少しています。

【図表】 3-23 子育ての楽しさ（単数回答）

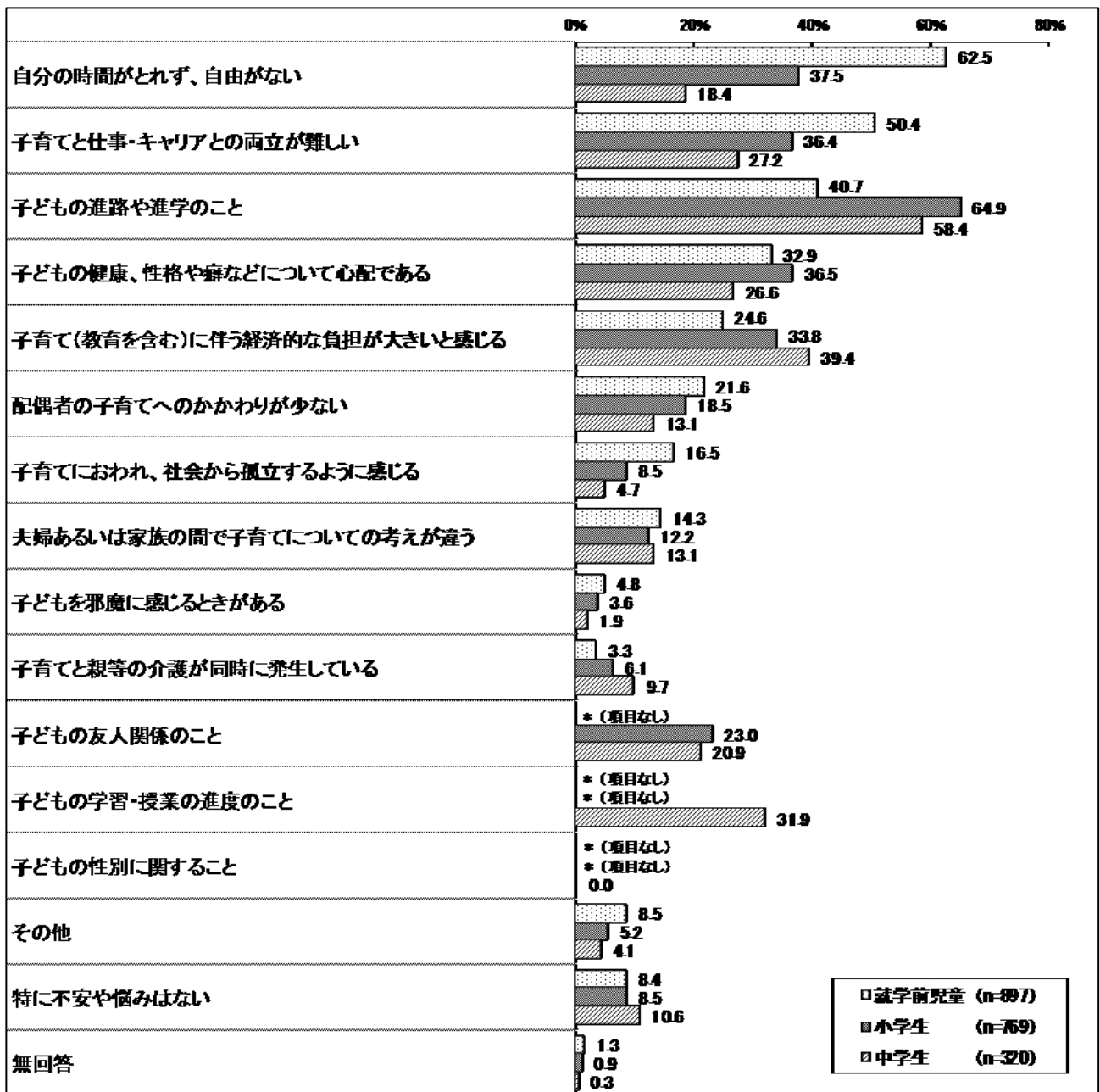


(4) 子育ての不安や悩み

子育てをする上での不安や悩みについて、就学前児童の保護者は「自分の時間がとれず、自由がない」が62.5%と最も多く、次いで「子育てと仕事・キャリアとの両立が難しい」50.4%と、ワーク・ライフ・バランス関連の項目が上位に挙げられています。

一方、小学生の保護者及び中学生の保護者で最も多いのは「子どもの進路や進学のこと」でそれぞれ64.9%、58.4%、次いで小学生の保護者では「自分の時間がとれず、自由がない」が37.5%、中学生の保護者では「子育て（教育を含む）に伴う経済的な負担が大きいと感じる」が39.4%となっており、子どもの成長に伴う教育や経済的不安が上位に挙げられています。

【図表】 3-24 子育ての不安や悩み（複数回答）



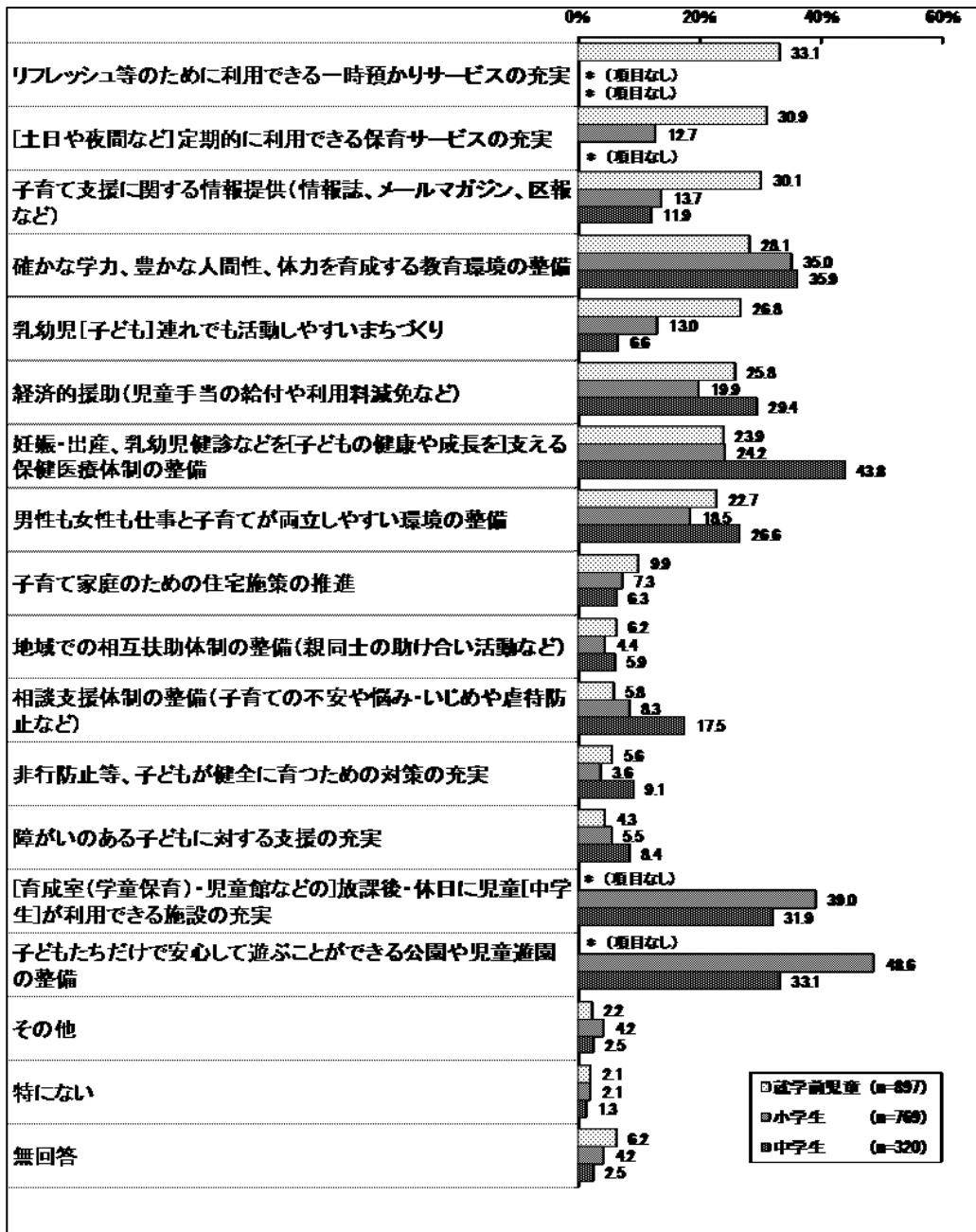
(5) 役立つ子育て支援の施設・サービス

役立つ子育て支援の施設・サービスについて尋ねたところ、就学前児童の保護者は「リフレッシュ等のために利用できる一時預かりサービスの充実」をはじめ、「定期的に利用できる保育サービスの充実」など上位6項目が約25%から約35%となっています。

小学生の保護者は「子どもたちだけで安心して遊ぶことができる公園や児童遊園の整備」が48.6%と最も多く、次いで「育成室(学童保育)・児童館などの放課後・休日に児童が利用できる施設の充実」が39.0%、「確かな学力、豊かな人間性、体力を育成する教育環境の整備」が35.0%の順となっています。

中学生の保護者は「子どもの健康や成長を支える保健医療体制の整備」が43.8%と最も多く、「確かな学力、豊かな人間性、体力を育成する教育環境の整備」が35.9%、「子どもたちだけで安心して遊ぶことができる公園や児童遊園の整備」33.1%の順となっています。

【図表】3-25 役立つ子育て支援の施設・サービス(複数回答)



(6) 定期的な教育・保育の利用希望—子どもの年齢別

子どもの年齢別にみると、「保育園等」全体は0歳が85.4%、1歳が77.9%、2歳が76.0%と7割を超え、年齢が低いほど希望する割合が多くなっています。

「幼稚園」全体は4歳を除くすべての年齢で50%を超えているものの、「保育園等」全体の利用意向の割合を下回っています。

「区立認可保育園」「私立認可保育園」は0歳が多く、それぞれ72.0%、68.3%となっています。

【図表】3-26 定期的な教育・保育の利用希望—子どもの年齢別（複数回答）

		(%)					
	就学前 児童 計 (n)	年齢【平成30年4月1日時点】					
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
	(897)	(164)	(154)	(146)	(148)	(139)	(143)
区立幼稚園	388	46.3	44.8	41.1	37.2	25.2	36.4
国立大学付属幼稚園	35.1	41.5	42.9	35.6	36.5	20.1	31.5
私立幼稚園	39.4	37.2	42.2	43.2	41.9	35.3	36.4
「幼稚園」全体	A	54.6	51.2	54.5	57.5	56.8	48.9
区立幼稚園の預かり保育	34.1	40.2	44.2	34.2	32.4	20.1	31.5
私立幼稚園の預かり保育	33.1	32.3	42.2	34.2	36.5	20.1	32.2
「幼稚園の預かり保育」全体		40.2	42.7	47.4	39.7	41.2	28.1
認定こども園	37.3	49.4	50.0	42.5	31.8	23.7	23.8
区立認可保育園	50.9	72.0	57.8	52.7	50.0	40.3	29.4
私立認可保育園	43.4	68.3	51.3	43.8	38.5	30.9	23.8
家庭的保育事業(保育ママ)	4.1	7.3	2.6	4.8	3.4	2.9	3.5
小規模保育事業(0~2歳)	6.1	15.9	5.8	2.1	6.1	1.4	3.5
事業所内保育事業	8.9	15.9	9.7	6.8	8.1	5.0	6.3
居宅訪問型保育事業	5.9	9.1	5.2	4.8	5.4	3.6	7.0
臨時保育所	5.6	13.4	5.2	4.1	4.7	1.4	3.5
定期利用保育事業	4.5	7.9	4.5	4.1	4.7	0.7	4.2
東京都認証保育所	11.0	28.0	11.0	6.8	8.1	5.8	4.2
企業主岩型保育施設	7.0	15.2	7.8	6.2	6.1	1.4	4.2
グループ保育室	5.2	9.8	7.1	2.7	6.8	1.4	2.1
その他の認可外の保育施設	3.8	6.1	2.6	5.5	3.4	2.2	2.8
「保育園等」全体	B	69.1	85.4	77.9	76.0	67.6	58.3
ファミリー・サポート・センター	10.9	7.9	9.7	11.0	15.5	12.2	9.8
療育機関	5.2	3.0	3.9	2.7	8.8	6.5	7.0
その他	2.2	1.2	1.9	4.1	2.0	3.6	0.7
無回答	3.1	0.6	5.2	2.7	4.1	3.6	2.8
特になし	2.0	1.2	0.6	2.7	1.4	3.6	2.1

※「全体」は対象事業のいずれか1つ以上を選択した者の割合

		(%)					
	計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
A+B	123.7	136.6	132.4	133.5	124.4	107.2	105.6

「幼稚園の利用を希望する」への回答と「保育園等の利用を希望する」の回答を合算すると、いずれの年齢においても100%を超えている。(複数回答形式のため)

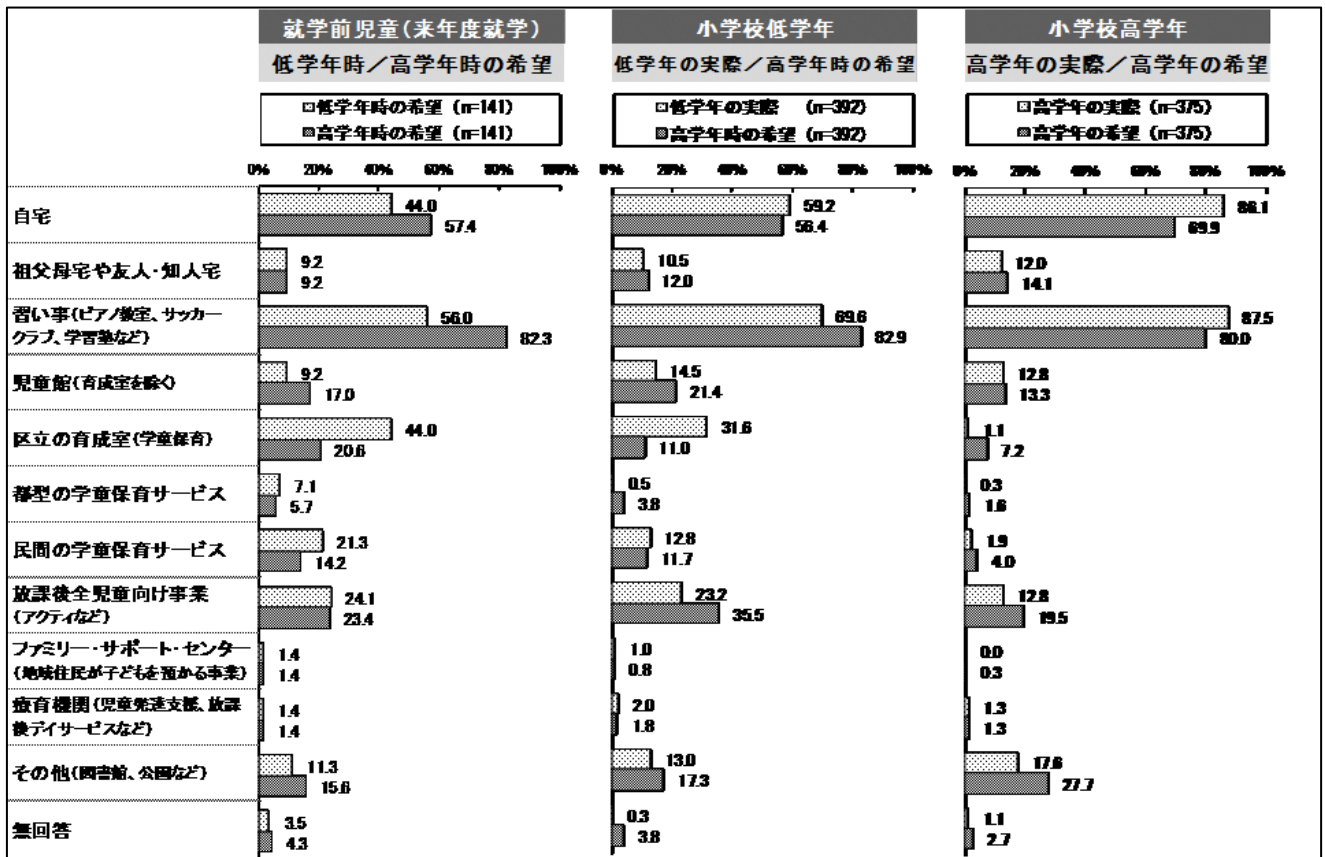
(7) 小学校の放課後を過ごさせたい場所・過ごしている場所

小学校の放課後の過ごし方について、就学前児童（来年度就学する児童）の保護者へ将来の希望を尋ねたところ、低学年時、高学年時ともに「習い事」が最も多く、低学年時は56.0%、高学年時では82.3%となっています。低学年時は、次いで「自宅」「区立の育成室（学童保育）」が44.0%となっています。

小学校低学年の保護者に低学年の実際と高学年時の希望を尋ねたところ、ともに「習い事」が最も多く、次いで「自宅」となっています。低学年の実際は「区立の育成室（学童保育）」が31.6%となるのに対し、高学年時の希望は「放課後全児童向け事業（アクティなど）」が35.5%となっています。

小学校高学年の保護者に高学年の実際と希望を尋ねたところ、実際は「習い事」が87.5%と最も多く、次いで「自宅」が86.1%となっている。希望は「習い事」が80.0%、「自宅」が69.9%となっています。

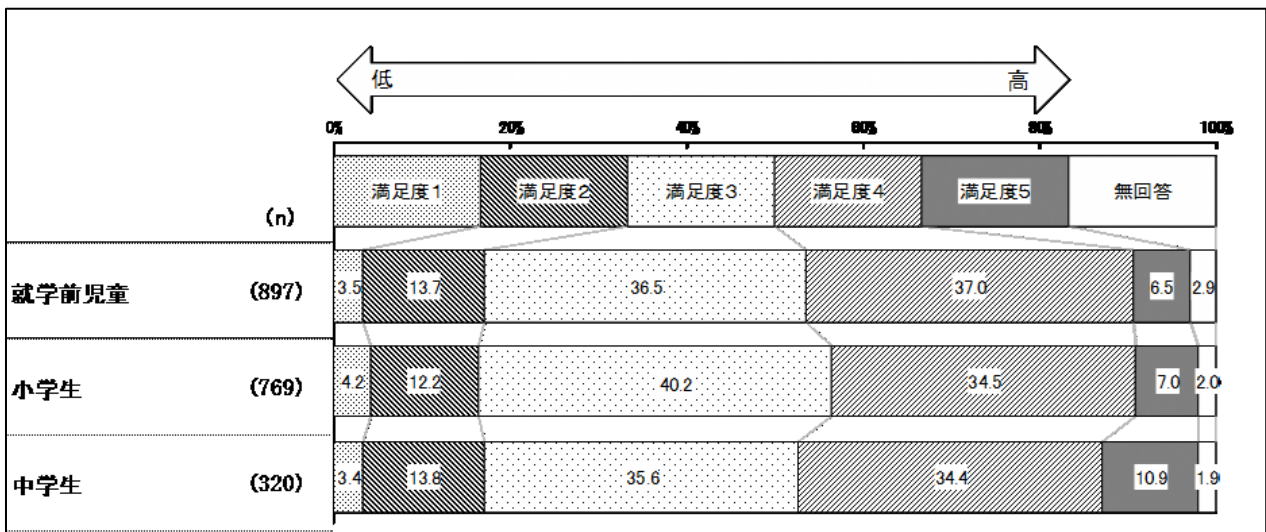
【図表】 3-27 小学校の放課後を過ごさせたい場所・過ごしている場所（複数回答）



(8) 子育て支援や環境への満足度について

区の子育ての環境や支援について、満足度を5段階評価で尋ねたところ、就学前児童の保護者、小学生の保護者、中学生の保護者ともに満足度が高い「満足度4」「満足度5」が満足度の低い「満足度1」「満足度2」の割合を上回っている。

【図表】 3-28 子育て支援や環境への満足度について（複数回答）



《満足度1と2の合計》	《満足度4と5の合計》
就学前 17.2%	就学前 43.5%
小学生 16.4%	小学生 41.5%
中学生 17.2%	中学生 45.3%